

令和 7 年度の主要実施事業報告

(1) 京丹後市文化財保存活用基金 [基本方針 1-2-6]

京丹後市文化財保存活用基金から文化財保存活用事業に繰入し、補助金交付額の拡充をはかる。

京丹後市文化財保存活用基金（令和 5 年 9 月 15 日付設置）

令和 6 年度事業に 2,000,000 円繰入し、令和 6 年度末残高 84,983,285 円。

令和 7 年度は、2 月 24 日時点の実績で 71,789,500 円（2,636 件）の寄附金あり。令和 7 年度事業には 26,436,267 円を繰入予定。

寄付金額の増加のための更なる工夫が課題。

**(2) 京丹後市市民遺産制度 [基本方針 1-5-24]**

令和 6 年 4 月 1 日から公募を開始。

令和 6 年度 京丹後市市民遺産の認定件数 5 件。

令和 7 年度認定目標件数：1 件

市民遺産補助金制度の創設。令和 7 年度補助金活用件数 1 件。

**(3) 網野銚子山古墳整備事業 [関連文化財群 2-1-3]**

令和 7 年 4 月に史跡オープン。令和 7 年 4 月 26 日（土）にオープニングイベントを実施。

参加人数延べ約 1000 人。地域イベントとしての定着を図るために、引き続き網野銚子山古墳への来訪を呼びかけ、積極的な活用を働きかける。

京丹後市観光公社への委託事業の結果、古墳ツアーや古墳めぐりスタンプラリーを実施した。引き続き、ツアーやスタンプラリーの開催に協力するとともに、教育分野、地域コミュニティでの活用もはたらきかけていく。

また、年度末に整備事業報告書を刊行し、整備成果を共有するとともに、管理規則を制定したことで今後の活用につなげていく。





(4) 府大 ACTR・学校連携 [基本方針 1-5-26、関連文化財群 2-1-6]

令和7年度京都府立大学地域貢献型特別研究（通称：府大 ACTR）が採択され、湯舟坂2号墳プロジェクトにおいて、市教委・府大・須田区が協力し、須田平野古墳の発掘調査等を実施。

併せて、丹後緑風高校との連携授業実施し、高校生が須田平野古墳の発掘調査を体験することで、調査研究と次世代育成につなげる。

令和8年2月28日、成果報告会を開催、主に湯舟坂2号墳出土遺物の修理事業の研究発表を通じて、市立資料館で国指定重要文化財を収蔵・公開することを目指すことについて言及した。参加者72名。

(5) 丹後震災記念館耐震化・利活用検討事業 [関連文化財群 1-3-2]

丹後震災から100年を迎えるにあたり、丹後震災記念館の耐震化や新たな利活用について検討を進め、耐震工法調査の結果を盛り込んだ「基本計画」を策定した。



・検討委員会の開催 → 基本計画の策定。

・サウンディング調査を実施 → 民間事業者等の意見を把握し、活用の方策を検討。

・建物調査 → 再度の耐震診断と耐震工法調査を行い、具体化に供える。

(6) 丹後震災100年に向けた取組み [関連文化財群 1-3-1]

令和9年3月7日に100年を迎える丹後震災の周知啓発を図るための取組を進める。

・デジタルアーカイブ事業 → 震災資料のデジタル化

3Dデータの作成

・丹後震災記念展 → 例年、峰山地域公民館で実施していたものを小中学校での巡回展示へ

・丹後震災次世代プログラム「100年越しのシャッター」

→ 小中学生対象の定点観測体験（震災当時の写真と同じ構図で撮影をする）。



(7) 出前授業等の対応

- ・令和7年度 出前講座依頼件数12件。
- ・地域公民館主催「文化財ウォーキング」2回開催、延べ73名参加。
- ・「京丹後の歴史文化を学ぶ」令和7年度丹後町を会場に2回開催。
(令和8年度も続けて3回開催予定) 7年度参加者延べ50名。